

2021年8月30日

あおぞら投信株式会社

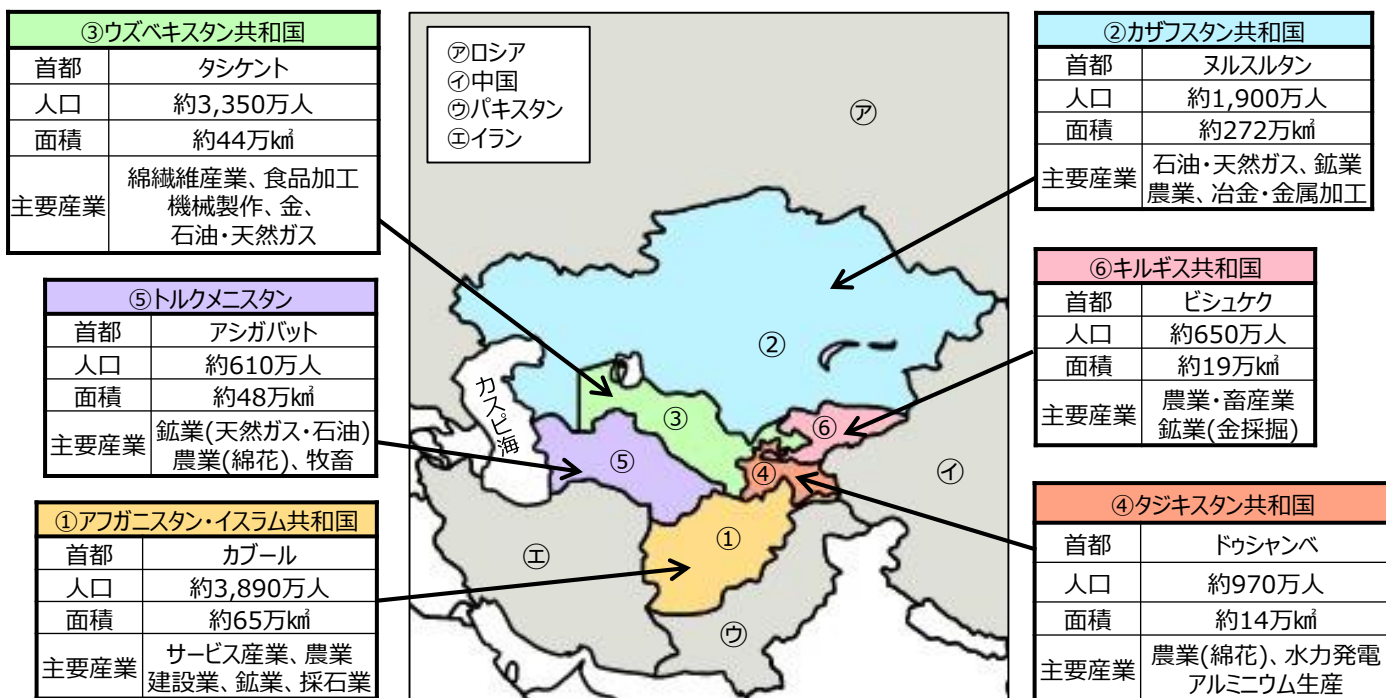
「アフガンを 遠い国だと 思う時 彼の地に人の 意思が残って」

今回のアフガニスタンにおける、反政府勢力タリバンによる首都カブール掌握と、ガニ大統領率いるアフガン政権崩壊の状況は、この国の複雑な歴史を示しているものです。中央アジアに位置する約3300万人の他民族国家であるアフガニスタン・イスラム共和国は、ユーラシア大陸とインドを結ぶ『文明の十字路』にあり、古代から交易の中継点として栄えてきました。18世紀にアフガニスタン人による王朝が成立しましたが、1973年以降はクーデターやロシア(旧ソ連)の侵攻、それに対抗する米国の支援など内戦が続いたため、多くの難民が生まれて隣国のパキスタンなどへ逃れました。そのような中、1996年にタリバン政権が発足しました。タリバン(原義は神学生)とは、イスラム原理主義組織としてソ連のアフガン侵攻に対抗して創設された組織で、多くのパキスタン人が含まれています。この時の政権が「コーランの定めに沿った法律の厳格な解釈により、女性や宗教的少数派の人権弾圧を行った」ことが、多くの国民の国外脱出行動に繋がっているのです。2001年の9.11同時多発テロを起こしたアルカイダ(イスラム主義を掲げる国際テロ組織)を匿ったことから米国の攻撃も受けました。そしてこのアフガニスタンは日本にとって縁の深い国なのです。

1984年からパキスタン・アフガニスタン地域の医療活動に従事してきた医師中村哲さんは、2010年に医療と難民問題解決のために地元福岡をモデルとした用水路建設を自らが手がけて、10万人の農民の生活基盤を整備したのです。それ以降も現地住民の用水路建設が可能となるように教育機関を建設するなど、名誉市民権を与えられていました。2019年12月に銃撃により残念ながら亡くなりましたが、その意思は繋がっているのです。アフガニスタン以外の中央アジア5か国(カザフスタン、ウズベキスタン、タジキスタン、トルクメニスタン、キルギス)と日本の関係は天然資源のみならず、人的交流など幅広くあり、日本の外交にとっても重要なものがあります。地政学リスクは常に存在しており、我々自身が海外との繋がりを見直すことこそが地政学の一步なのです。

柳谷俊郎

～アフガニスタンと中央アジア5か国の基本情報～



出所：外務省HPのデータを基にあおぞら投信が作成。

本資料は情報の提供を目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、本資料作成日現在の当社の見解であり、事前の予告なしに変更される事もあります。投資信託の取得に当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。

商号：あおぞら投信株式会社 金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第2771号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 ホームページ・アドレス：<http://www.aozora-im.co.jp/>